

口腔ケアはどう貢献しているか？

- 周術期口腔機能管理の現状報告 -

歯科口腔外科 吉田明弘

2014. 11. 13. オープンカンファレンス

本日の内容

- ①周術期口腔機能管理について
- ②口腔ケアと歯科治療
- ③紹介の現状
- ④症例提示
- ⑤周術期口腔ケアにおける
歯科衛生実地指導の実際

A. Yoshida OPC2014



はじめに

- 周術期に適切な口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎などの術後感染の減少や、化学療法中の口腔粘膜炎の軽減、それに伴う平均在院日数の短縮、投薬量の減量など、様々な効果が報告されている。

A. Yoshida OPC2014

診療報酬

- 口腔に関連する合併症の予防に対する歯科で治療計画と管理料の算定が記載された

- 平成24年度の診療報酬改定で周術期の口腔機能管理関連項目として、「周術期口腔機能管理計画策定料(300点)」「周術期口腔機能管理料(I)・(II)・(III)」190～300点が歯科の診療報酬の中に創設された。
- 平成26年度診療報酬改定において、「周術期口腔機能管理料(I)・(II)の術前が増点」された

A. Yoshida

OPC2014

手術等を実施する医科歯科併設の病院， 歯科病院

入院前

手術を実施する診療科 (歯科診療科も含む)

周術期口腔機能管理が必要な手術を実施する患者

依頼 (同一医療機関内での文書は不要)

病院内の歯科医師
周術期口腔機能管理計画策定料 (1回限り) 300点

病院内の歯科医師
周術期口腔機能管理料 (I) 手術前190点 (1回限り)

→280点に増点

入院中

病院内の歯科医師
周術期口腔機能管理料 (II) 手術前300点 (1回限り)

→手術 →500点に増点

周術期専門的口腔衛生処置80点：周術期口腔機能管理料 (II) 算定月に，入院中の術前に1回，術後に1回限り

病院内の歯科医師
周術期口腔機能管理料 (II) 手術後300点
周術期口腔機能管理料 (II) 手術後300点

入院中の患者に対し，手術後は手術を行った月から3月以内に月2回まで

退院後

病院内の歯科医師
周術期口腔機能管理料 (I) 手術後190点

手術後は手術を行った月から3月以内に3回まで

A. Yoshida OPC2014

周術期口腔機能管理 平成24年4月～

【適応】

- **全身麻酔下手術**

頭頸部, 呼吸器, 消化器領域の悪性腫瘍
臓器移植手術

心臓血管外科手術 など

- **化学療法および放射線治療**

A. Yoshida OPC2014

診療報酬

- 医科の診療報酬の中に「歯科医療機関連携加算(100点)」と「周術期口腔機能管理後手術加算(100点)」が創設された。

A. Yoshida OPC2014

歯科医療機関連携加算 100点 (診療情報提供料の加算250点→350点)

- 歯科を標榜していない病院が、顔面・口腔・頸部、胸部および腹部の悪性腫瘍手術、心・脈管(動脈および静脈は除く)の手術もしくは造血幹細胞移植の手術を行う患者について、手術前に歯科医師による周術期口腔機能管理の必要性を認め、歯科を標榜する保険医療機関に対して情報提供を行った場合

A. Yoshida OPC2014

周術期口腔機能管理後手術加算 100点(手術料の加算)

- 歯科医師による周術期口腔機能管理の実施後1月以内に、顔面・口腔・頸部、胸部および腹部の悪性腫瘍手術または心・脈管系(動脈および静脈は除く)の手術を全身麻酔下で実施した場合

A.Yoshida OPC2014

口腔ケア

道具を駆使した
清掃（保掃）
と保湿

口腔リハ
廃用予防
摂食・嚥下訓練

器質的口腔ケア

細菌をできるだけ
取り除く

+

機能的口腔ケア

歯科治療介入



A. Yoshida QPC2014

周術期口腔機能管理 ≡ 周術期口腔ケア

- 口腔アセスメント
(オーラルアセスメント、診査・診断)



- 歯科治療
- 口腔マネージメント
(オーラルマネージメント、口腔環境整備)

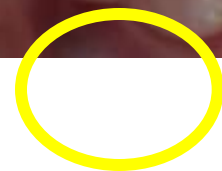
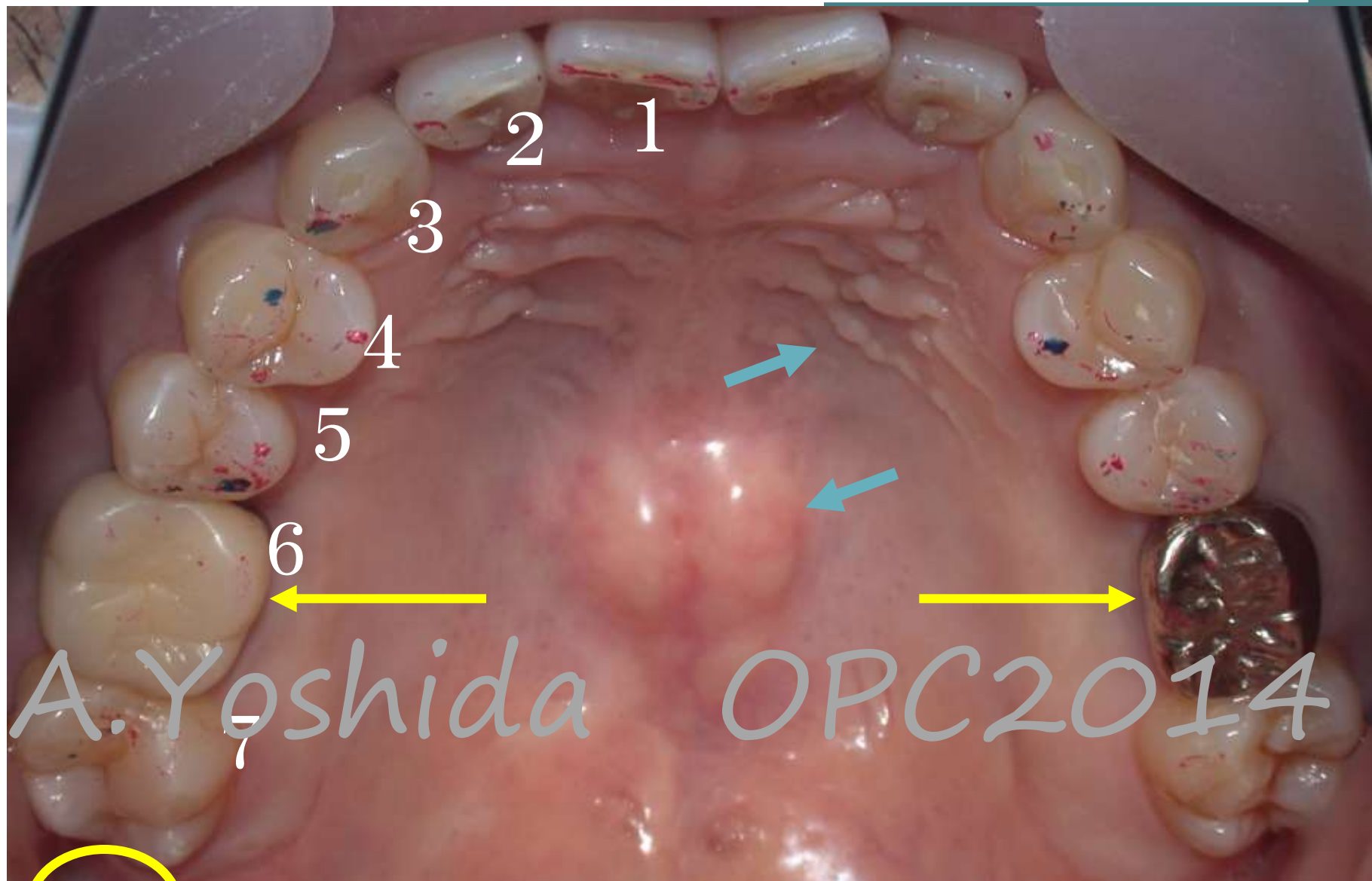
A. Yoshida OPC2014

現在行っている口腔機能管理 オーラルアセスメントとオーラルマネージメント

- 口腔衛生状態のcheck!
- 歯性感染症(齲蝕、歯周病)の有無・程度をcheck!
- 口腔粘膜病変、顎関節病変のcheck!
- 義歯(床義歯、冠など)適合状態のcheck!
- 咬合(および咀嚼状態)のcheck!

≡ 日常の歯科臨床
≠ 健診、検診

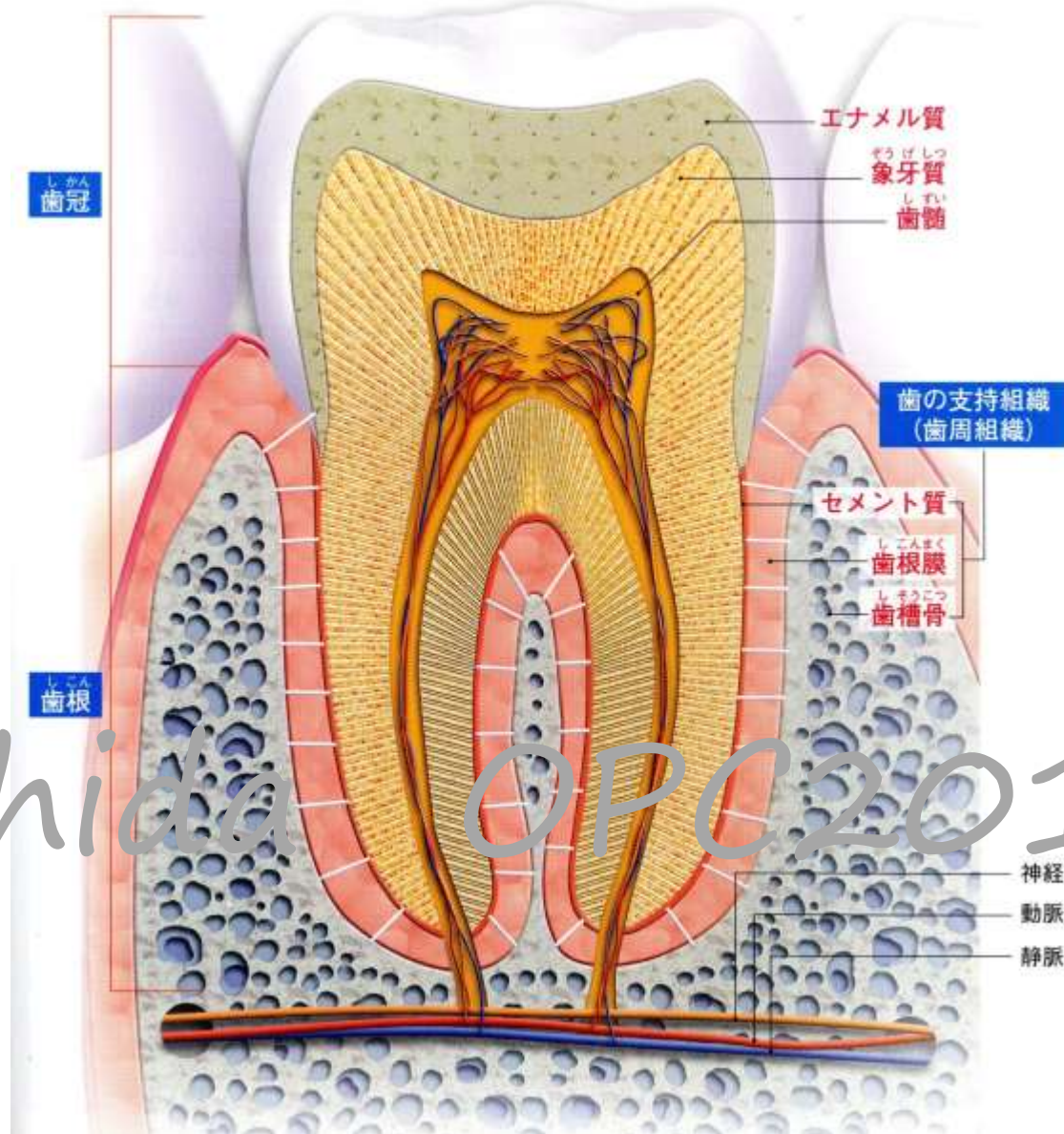
A. Yoshida OPC2014



8 : 第3 大白歯 (智歯・親知らず)

歯の断面

歯の縦断面



A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida

OPC2014



冠

A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida OPC2014

歯周病の原因と進み方



石川 烈：歯周病と全身の健康、医学情報社2006より抜粋



進行性牙周病 (齒槽膿漏) → OPC2014

歯垢の菌濃度は糞便に匹敵

歯垢 $10^{11}/g$

唾液 $10^8 \sim 10^9/ml$

$10^{10} \sim 10^{11}/g$

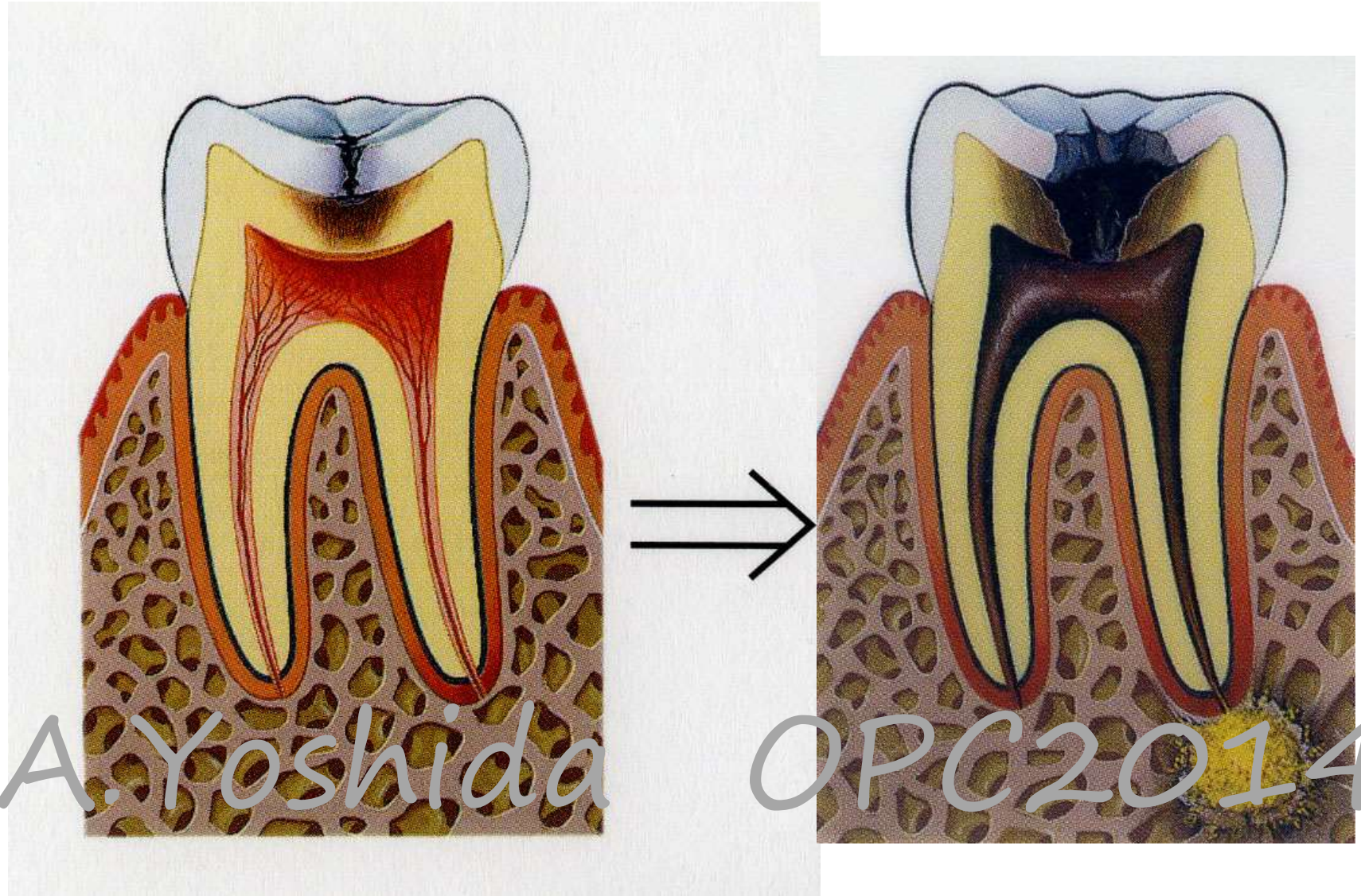


歯肉膿瘍

辺縁性歯周炎？
根尖性歯周炎？
顎骨炎に波及？

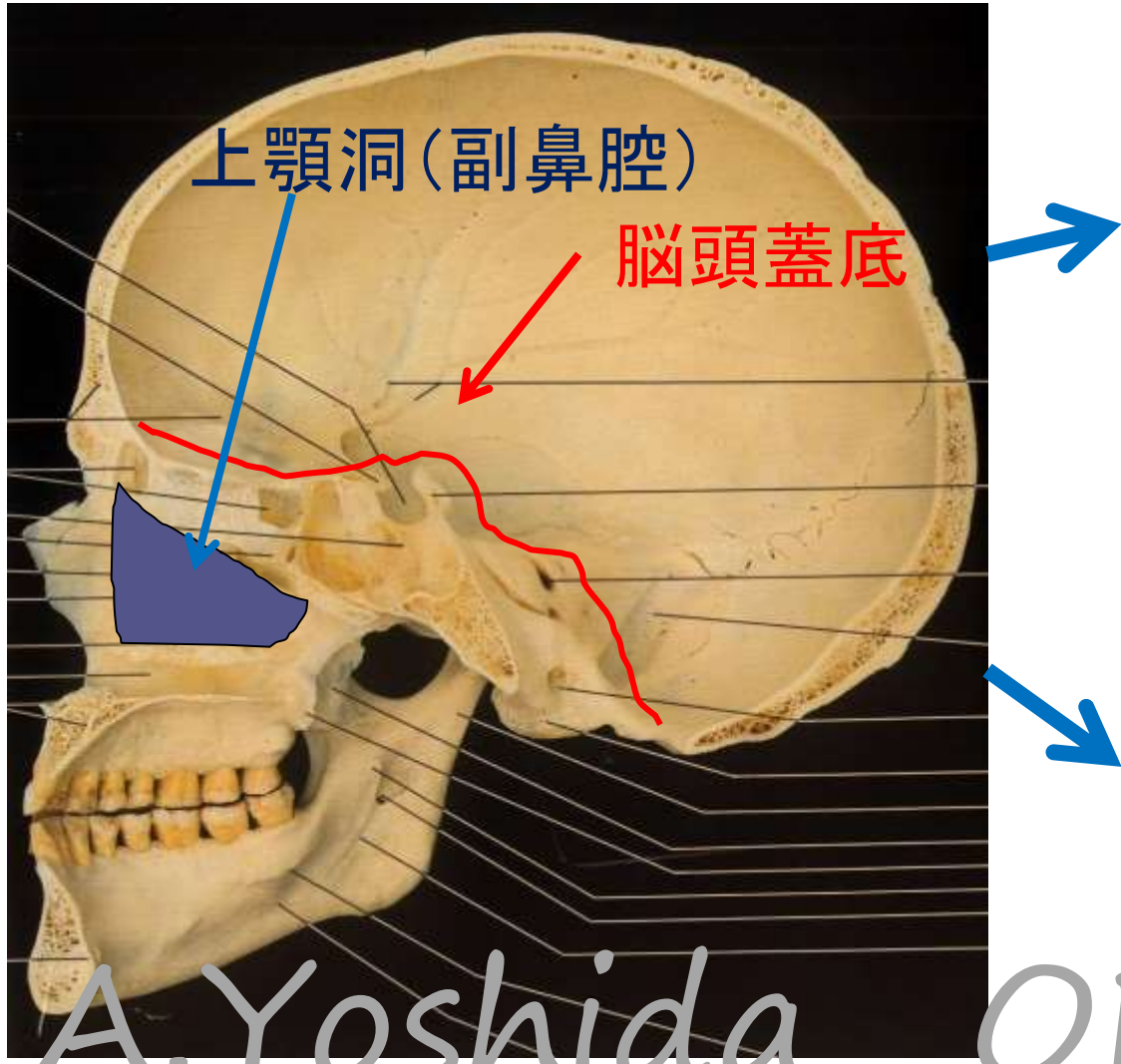


A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida

OPPC2014



A. Yoshida OPC2014

歯科で汎用されるレントゲン

歯科用(デンタル)X-P

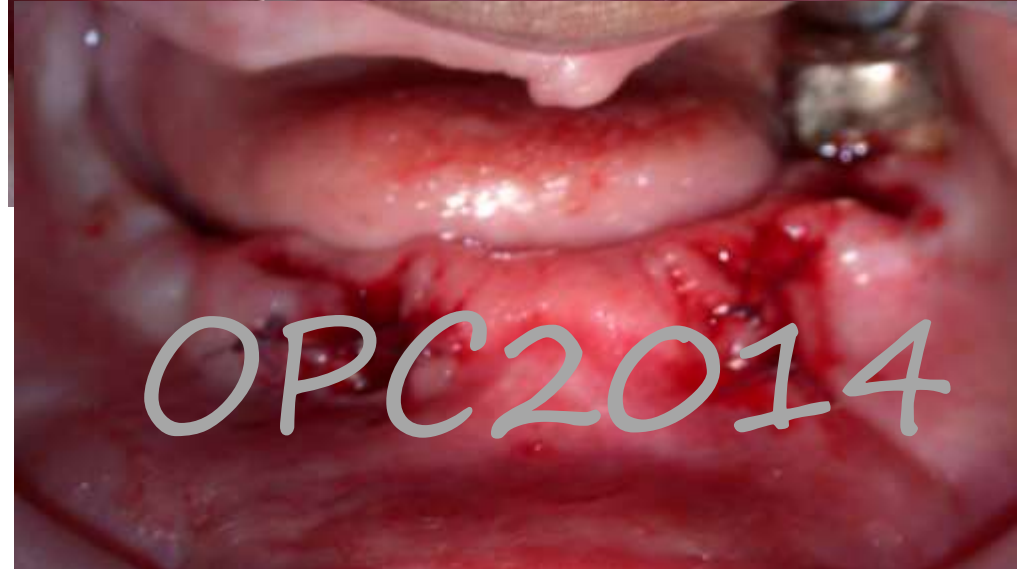
パノラマx-p



A. Yoshida

OPC2014

歯科治療は基本、観血的処置である



A. Yoshida

OPC2014



FV 19970114

症例：60歳代 女性

既往歴：高血圧症

2型糖尿病

診断：慢性歯周炎（重度）

多数歯齲蝕

歯肉増殖症

①観血の手術

（抜歯, 歯肉切除）

②歯石除去（scaling）

③根管治療

④補綴処置

（ブリッジ&床義歯作製）



20030609

03.6.9

A. Yoshida

OPC2014

歯周病と全身の健康の関係について

むし歯

脳膿瘍

敗血症

歯周病

顎骨壊死

誤嚥性肺炎

骨粗しょう症

肺炎

感染性心内膜炎/
心筋炎

低体重児

心臓病

A. Yoshida OPC 2014

バージャー病
(閉塞性血栓血管炎)

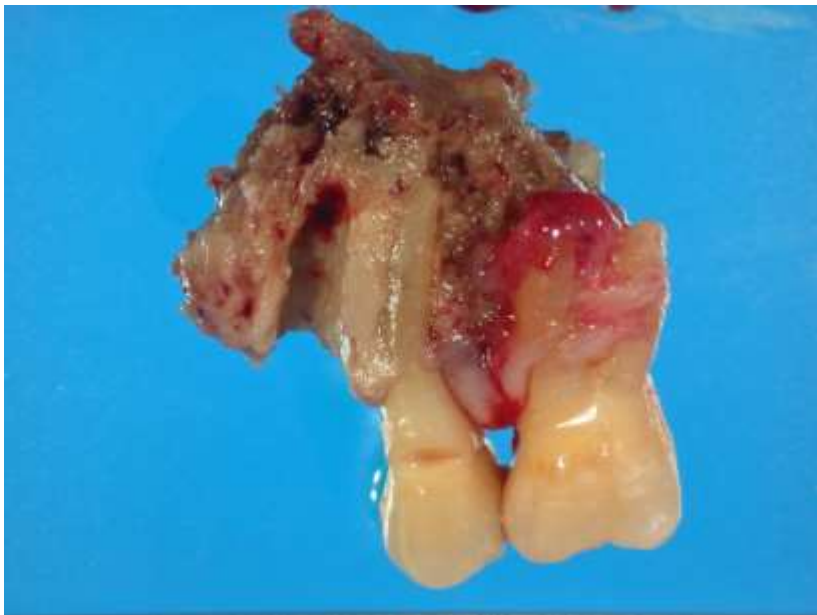
糖尿病

皮膚炎
動脈硬化



石川烈編：歯周病と全身の健康
医学情報社2006を引用改変

BP製剤による上顎骨壊死



A. Yoshida



OPC2014

- 歯科医療は、技術職である。
- 歯は消耗品であるが、努力により長く持たせることができる。
- より質の高い補綴修復物、装着材料は義歯を長持ちさせる。
- さらに患者教育により、良好な歯周環境を作り、より歯や義歯を長く持たすことができる。





A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida

OPC2014

がん治療に伴う口腔合併症の割合 (米国がんセンターHPより)

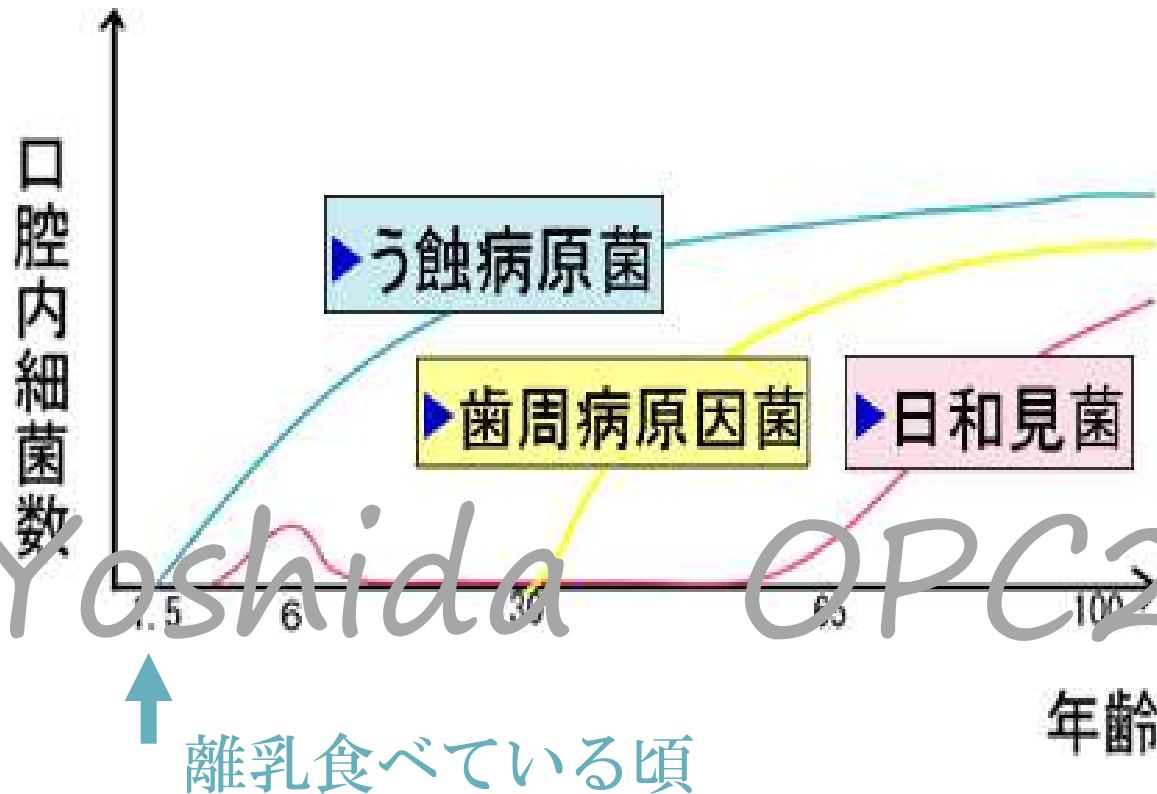
- 抗がん剤治療を受ける患者の40%
このうち50%に口内炎症状が強く、投与スケジュールの変更、投与量の変更
- 造血幹細胞移植患者の80%
- 口腔領域が照射野に入る放射線治療を受けた頭頸部患者の100%

→術前からの歯科疾患の治療と副作用に対する予防策
を考慮しておく必要がある

A. Yoshida OPC2014

口腔は細菌の温床

口腔内には様々な菌が定着し、加齢による免疫能の低下に伴い日和見菌が増加する。その種類は350～700種にのぼると言われ、これらの菌のうち、病原性のあるものは、大きく3つのグループに分けられる。



口腔カンジダ症 (偽膜性カンジダ)

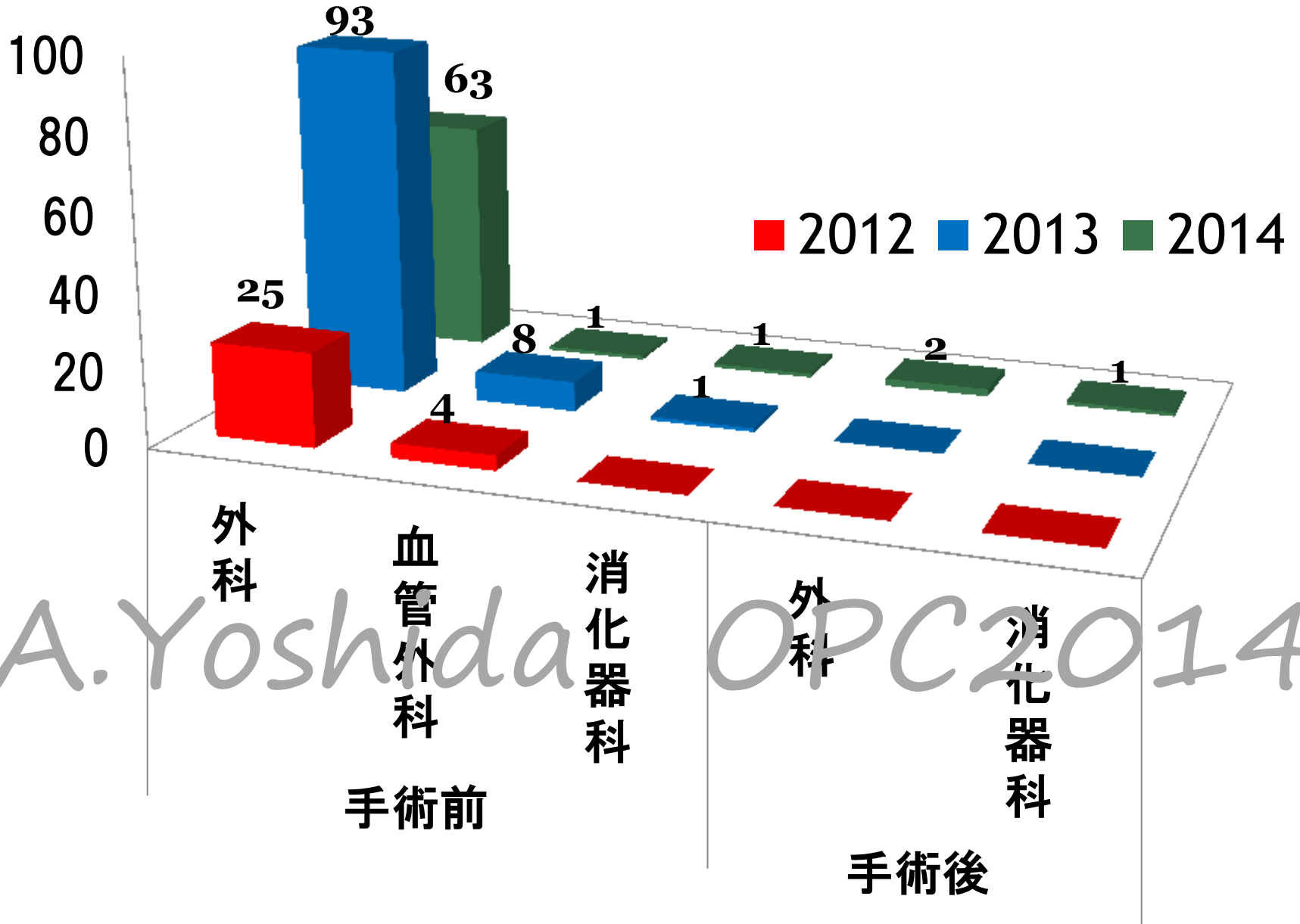


A. Yoshida

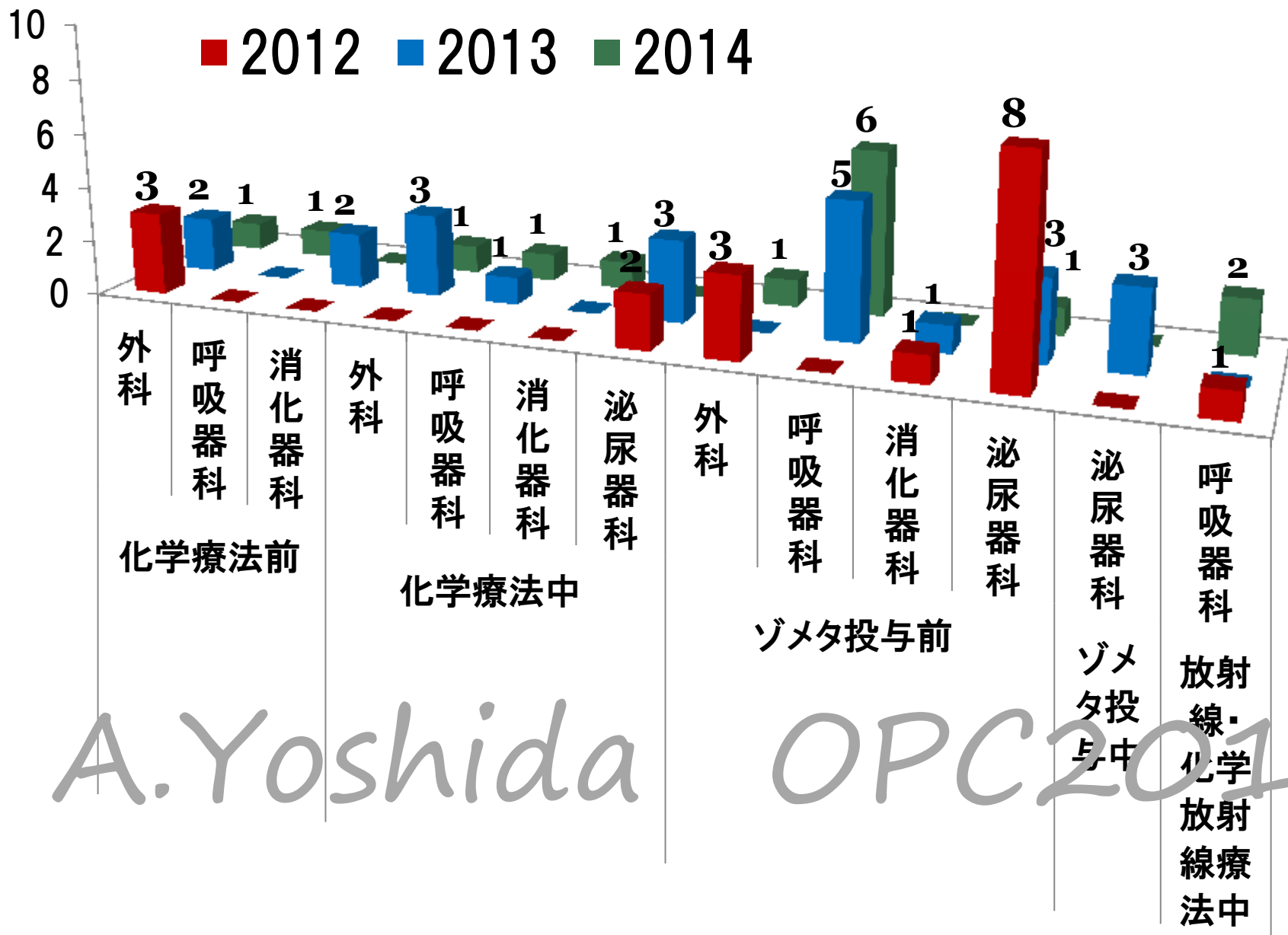
OPC2014

279例 (2012.4.-2014.10.)

- 2012年/2013年/2014年 49例/145例/85例
- 院内/院外 269例 / 5例 (紹介なし 5例)
- 手術前/手術後 201例 / 3例
- 化学療法前/療法中 9例/15例
- 化学・放射線治療中 5例
- ゾメタ・ランモック投与前/投与中 34例
- その他、周術期口腔機能管理算定にのらないもの 11例

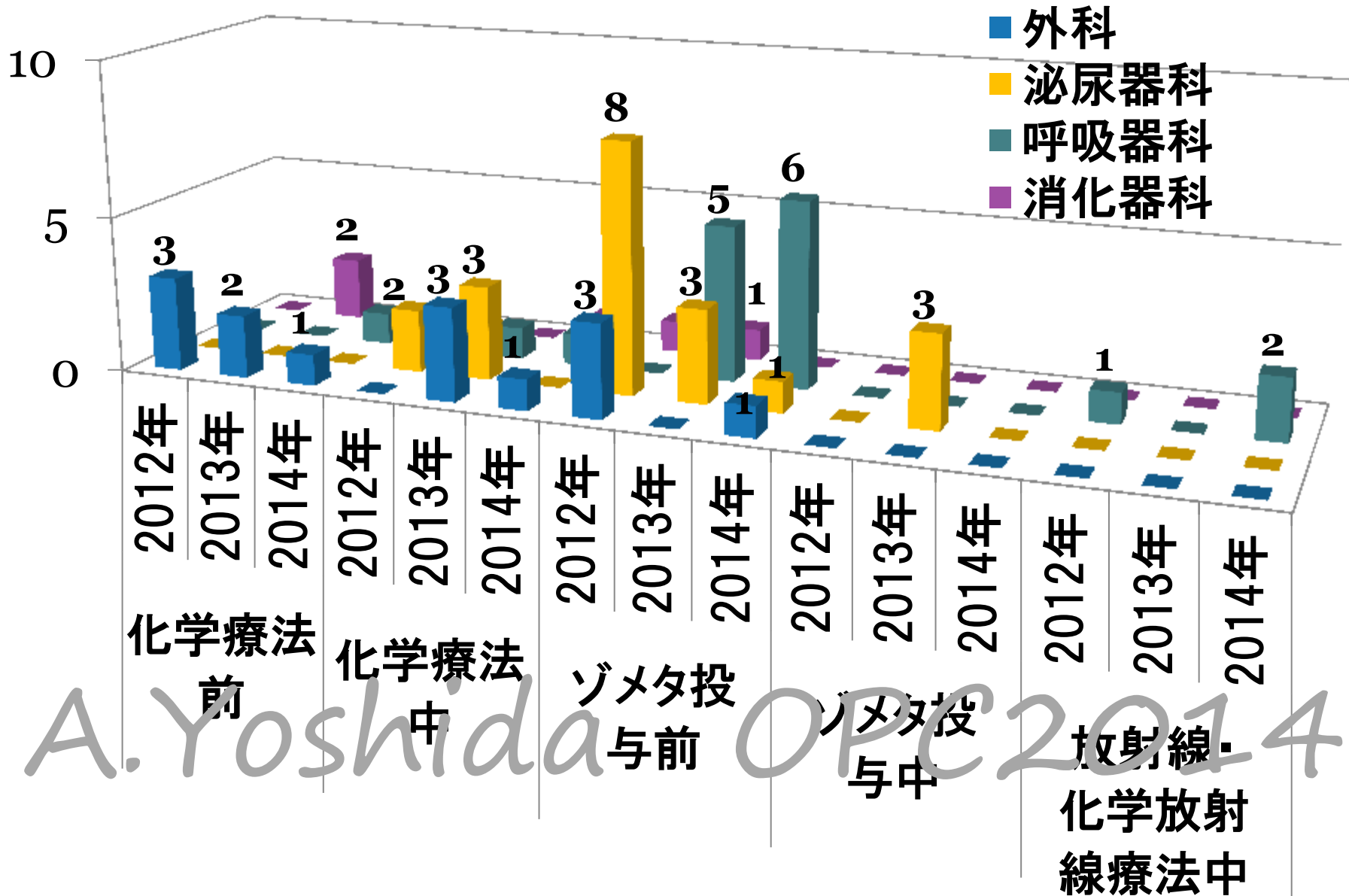


A. Yoshida OPC2014



A. Yoshida

OPC 2014



A. Yoshida OPC 2014

症例1 咀嚼障害

A.Yoshida OPC2014

マウスガード:挿管時の歯の保護



A. Yoshida OPC2014

症例2 口の中が痛い

A.Yoshida OPC2014

受診が勧められる患者さん

- 手術後人工呼吸器管理が必要
- 長期の絶食が必要
- 口腔乾燥が強い
- 人工材料挿入予定
- かかりつけ医を持たず、長期歯科受診がない

A. Yoshida OPC2014

歯科医師に対する教育

- 国立がん研究センターと日本歯科医師会は、厚生労働省からの委託事業として、協働でがん医療に携わる歯科医師の人材育成事業を行っている。
- 広島県歯科医師会でも歯科医師に対して がん医療に関する講習会を開催し、連携登録歯科医名簿を作成して、周術期口腔機能管理による地域医療連携を推進している。

A. Yoshida OPC2014

広島県歯科衛生連絡協議会では、広島県内の病院を対象にしてアンケート調査を行い、連携体制の現状と課題を明らかにし、周術期口腔機能管理を一層推進するための資料を作成中。

A.Yoshida OPC2014



上唇
歯肉
歯
口腔の構造
と咽頭の境
口腔前庭
下唇

結語

- 平成24年(2012)4月から始まった周術期口腔機能管理(周術期口腔アセスメント+マネージメント)についての概要と平成26年10月までの当科紹介件数および症例について報告した。

ご清聴ありがとうございました
A. Yoshida OPFC2014